公開プレゼンテーション審査
議事録

日時: 2010 年 5 月 23 日（日）
　　14:50～17:00
場所: 幕張メッセ国際会議場 302 号室

出席者

委員長
　尾池和夫　　国際高等研究所所長
副委員長
　町田　洋　　日本第四紀学会（東京都立大学名誉教授）
委員（五十音順）
　伊藤和明　　NPO 法人 防災情報機構会長
　加藤碩一　　産業技術総合研究所地質調査総合センター 代表
　菊地俊夫　　日本地理学会（首都大学東京教授）
　小泉武栄　　東京学芸大学 教授
　鹿野久男　　(財)国立公園協会
　瀬古一郎　　(社)全国地質調査業協会連合会 会長
　高木秀雄　　日本地質学会（早稲田大学教授）
　中川和之　　日本地震学会（時事通信編集委員）
　中田節也　　日本火山学会（東京大学地震研究所教授）

オブザーバー
　外務省広報文化交流部国際文化協力室課長補佐　　渡邉　博
　外務省広報文化交流部国際文化協力室　　徳田　薫
　文化庁文化財部記念物課天然記念物部門主任文化財調査官　　桂　雄三
　農林水産省農村振興局農村政策部農村環境課課長補佐　　長田実也
　農林水産省農村振興局農村政策部都市農村交流課　　岡庭信幸
　林野庁国有林野部計画課企画係　　坂口　隆
　環境省自然環境局国立公園課課長補佐　　藤井好太郎

事務局
　産業技術総合研究所　　佃　栄吉，脇田浩二，高橋裕平，渡辺真人，濱崎聡志，松島善雄，吉川敏之，澤田結基

プレス３名
　熊本日日新聞，時事通信社，国営アルプスあづみの公園

配付資料
・地球惑星科学連合 O-ES005 ジオパーク セッション概要および予稿原稿

14:50～
【公開プレゼンテーション趣旨説明】

事務局から，今年は 5 地域からの申請があり，日本ジオパーク委員会による審査について，体制，スケジュール，採点基準などに関する説明が行われた。

【プレゼンテーション】（質疑応答入れて 20 分。質問は委員から。）

1）阿蘇

エリア範囲（1 市 7 町村）／阿蘇カルデラの地質学的な位置付け／GGN 申請の 5 つの背景：1 阿蘇カルデラ，巨大噴火(Aso4)，中央火口丘，2 地質，3 活動的火山，4 特徴的な動植物，5 歴史文化／子供研究者の育成と出前授業／阿蘇火山の大地と人間生活／紹介 DVD の上映（阿蘇ジオパークの概要とジオサイト，ジオツアー，ガイド教育など）　　などの説明

＜質疑応答＞
・世界へ向けての課題は何か。　→　解説板等の整備と，防災である。
・従来のエコツアーとジオツアーをどのように差別化しているか。
　→　エコツアーは動植物のガイドが多いので，ジオに関する講座を実施している。
・ジオダイバーシティーとして阿蘇以外での取り込みはあるか。
　→　中央構造線など古い時代の地質もジオパークエリアに取り込んでいきたい。
・活火山であれば外国人に対する防災システムも大事。
・各自治体に温度差はないか。ガイド養成システムにはどんなものがあるか。
　→　各議会を回りジオパークと世界遺産の違いや，ブランド向上につながるなどを説明，また，シンポジウムを開催するなどの意識向上を展開している。

2）室戸

海から陸への扉／22 のジオサイト／協議会の取り組み／高知大との連携、地元高校でジオパーク学授業／防災教育と自主防災組織／ジオツーリズム:ガイド案内やマリンレジャー／ジオ関連商品／ウェブサイト，5 カ国語対応，市民向け説明会，各種イベント，キャラクター／まとめと展望:ジオサイト，体制など GGN への申請準備が整った。　　などの説明

＜質疑応答＞
・国内の世界ジオパークから得た教訓，今の室戸の課題は何か。
　→ 地元のすばらしいものをわかってもらうのが第一。それが教育，観光につながる。
・テーマに室戸の良さが入っているので，前面に盛り込んでほしい。個々のジオサイトは良いが，それらを統一的に結びつけるストーリーに乏しい。根幹は何か。（複数）
　→ 室戸を見れば海と陸のつながりがわかるということ，次に防災。GGN 申請書では，テーマを前面に出し，今回の申請書に反映されていないストーリーも入れる。
・ 携帯サイトは専門家向けである。ガイドの説明はどうか。
　→ 各ガイドで個性はあるが，日常生活品に例えた生活感のある説明に努めている。
・ガイドの拠点はどこか。遊歩道の整備計画はどうか。
　→ ガイド拠点は室戸観光協会であり，遊歩道は整備中である。
・津波対策として緊急地震情報は有効だが，伝達の仕組みはあるか。
　→ 海岸での自主防災組織率は 100%。今後は防災行政無線の整備に着手したい。

3）霧島

日本初の国立公園／エリア範囲（5 市 2 町）／霧島山の概要／火山活動と植生遷移，植物多様性／遊歩道等の整備／4 つのジオエリア（えびの高原，高千穂河原など）／ジオパークを目指す取り組み／ガイド養成（多くは従来からの自然ガイド），エコツアー／ガイドブックを理科教育等に利用／運営組織と構成団体との連携　　などの説明

＜質疑応答＞

・バックグラウンドは十分だが，一般ドライバー等への情報提供にわかりにくさがある。また，遠景から見る観光客へはどう説明しているか。
　→　ガイドマップを作成中で，看板も今後設置していく。空港やバス等からの遠景では，各方角から，異なる眺望の説明をしている。
・防災マップ等で過去の火山活動を住民・観光客に知らせる努力が必要。火山監視等の安全面ではどんなしくみがあるか。　→　気象庁や自治体の防災情報をもとにしている。財政を伴うものは整備が遅れているが，その計画はある。
・ジオパークは計画の審査ではなく，実績の審査である。
・植物を通じてジオがよく理解できるので，植物と噴火を結びつける解説がほしい。
　→　植物もガイド養成で取り組んでいる。
・ どうやって 5 市 2 町による運営組織を持続させているか。
　→　複数行政を母体としており，その連携はとれている。

4）伊豆大島

伊豆大島の概要（玄武岩質の成層火山）／火山活動の履歴：山頂噴火と側噴火，約 40 年間隔で噴火，水とマグマの接触／火山地質はかなり解明／69 のジオサイト／海中の溶岩露頭／H22.5 から推進委員会／伊豆大島ジオパーク構想：拠点の火山博物館が大島町・大島観光協会・東京都等と連携／今後の計画：看板の設置等を進める。　　などの説明

＜質疑応答＞

・ ジオパークの新しい資料が少ない。ガイドブック等はどう整備するか。
　→　短期間での計画だったため，パンフレット作成もこれからである。新年度は行政からの予算もつき，現地視察までには作成できる。
・ 博物館への専門家の雇用計画は？　→　当面は地元のボランティア団体員を指導する。
・ ポテンシャルは高いが，実績・準備に乏しい。実績を評価するのがジオパークである。まず JGN にオブザーバー参加をしていただきたい。
　→　国立公園のため，看板の設置許可等に時間がかかっている。
・ジオパークの推進体制，特に火山博物館と大島町の連携，博物館での情報の充実など，まだかなりの努力が必要である。　→　組織体制は行政が先導しているが，民間団体として観光協会の協力があり，大島での意識改革は進んでいる。

5）白滝

地球と人をつなぐタイムマシン／日本一の黒曜石原産地／多様な地質（5 個以上のカルデラと白滝黒曜石流紋岩溶岩群），ジオサイト 32／黒曜石遺跡と石器工場／拠点：白滝ジオミュージアム(2012 年完成)／活動成果／白滝黒曜石ジオツアー／セミナー，教育プログラム／保全／白滝ジオパークへの再挑戦／ジオストーリーのまとめ　　などの説明

＜質疑応答＞

・ 地球科学と考古学の結びつけ方はどのように考えているか。
　→　220 万年前のマグマ活動で形成された黒曜石を石器に使ったというむすびつき。
・ ジオミュージアムでは，地質と考古の整備が別々に進んでいるように見える。

→　考古の展示が先行しているが，連動する予定である。

- 申請書は一年で進歩したが，まだ黒曜石にこだわりすぎている。220 万年前までさかのぼったジオダイバーシティのストーリーにしてはどうか。
  → 白滝に黒曜石が産する理由を考えている。白亜系など古い地質のルートも設定したい。上支湧別のジオサイトも設定予定である。
- 森林管理署との運営協力の進展状況は？　→　進行中だが，推進母体はまだ構想段階。

【総合討論】（会場参加者を含む）

- 先行研究に対するプライオリティ尊重には配慮してほしい。
- ガイドの質を保つ工夫が必要。ボランティアには過度な要望はできないし，継続性という点でも難がある。ガイド養成のためには大学が体制を整えるべき。ビジネスにするシステムが必要ではないか
  → 大学では講座を設けて，単位を取得させている所もある。（JGC）
  → ガイドの位置づけは重要。糸魚川ではジオパーク検定を実施し，有償ガイドとして認定している。彼らには知識だけでなく，伝達方法，また自分のことばに責任を持つためにも有償がいい。日本全体のジオパーク検定も考えていい。（JGN）
- 認定後のフォローアップが重要。JGC で再審査について検討していく。（JGC）
- エコツーリズムを参考にするとよい。そこから得た結論として，ガイドは有料とすべき。受益者負担は当然で，最終的にはガイドを受ける側がガイドを淘汰することになる。国立公園と重なっている地域は，ジオパークで全てやるのではなく，よきパートナーとして国立公園との連携を工夫してほしい。（JGC）
- 学校，特に高校で地学を教えられる教員が減っており，地学のカリキュラムのない学校もある。全国での傾向はどうか。
  → 地学という教科がなくなることを心配している。（JGC）
- 地質の情報が入手しにくい。地方大学の教官は一般業務に忙しく，支援技術者が枯渇しているのが現状。協力への意識を持ってほしい。

以上

第８回日本ジオパーク委員会
議事録

日時: 2010 年 5 月 23 日（日）
　　17:25～18:35
場所: 幕張メッセ国際会議場 302 号室

出席者

委員長
　尾池和夫　　国際高等研究所 所長
副委員長
　町田　洋　　日本第四紀学会（東京都立大学 名誉教授）
委員（五十音順）
　伊藤和明　　NPO 法人 防災情報機構 会長
　加藤碩一　　産業技術総合研究所地質調査総合センター 代表
　菊地俊夫　　日本地理学会（首都大学東京 教授）
　小泉武栄　　東京学芸大学 教授
　鹿野久男　　(財)国立公園協会
　瀬古一郎　　(社)全国地質調査業協会連合会 会長
　高木秀雄　　日本地質学会（早稲田大学 教授）
　中川和之　　日本地震学会（時事通信編集委員）
　中田節也　　日本火山学会（東京大学地震研究所 教授）

オブザーバー
　経済産業省産業技術環境局知的基盤課課長　　渡邊重信
　経済産業省産業技術環境局知的基盤課課長補佐　　永田邦博
　外務省広報文化交流部国際文化協力室課長補佐　　渡邉　博
　外務省広報文化交流部国際文化協力室　　徳田　薫
　文化庁文化財部記念物課天然記念物部門主任文化財調査官　桂　雄三
　農林水産省農村振興局農村政策部農村環境課課長補佐　　長田実也
　農林水産省農村振興局農村政策部都市農村交流課　　岡庭信幸
　林野庁国有林野部計画課企画係　　坂口　隆
　環境省自然環境局国立公園課課長補佐　　藤井好太郎
　国土交通省河川局砂防部砂防計画課　　吉村元吾

事務局
　産業技術総合研究所　　佃　栄吉，脇田浩二，高橋裕平，渡辺真人，濱崎聡志，松島善雄，吉川敏之，澤田結基

配付資料

資料 1　　日本ジオパーク委員会構成名簿
資料 2　　第 7 回日本ジオパーク委員会議事録（案）
資料 3　　第 4 回ジオパークユネスコ国際会議参加報告
資料 4　　評価シート

17:25～
【委員長挨拶】

世界ジオパークが増えているので，日本も頑張っていきたい旨の挨拶がなされた後，委員の交代について報告された。（資料 1）
菊地俊夫新委員より，地理学会として参加することになったことが自己紹介された。

【資料確認】

事務局より，ページと資料番号の対応が確認された。

【第 7 回委員会議事録確認】（資料 2）

委員会終了までに指摘箇所等はなく，承認となった。

【第 4 回ジオパークユネスコ国際会議参加報告】（資料 3）

事務局から以下のことが報告された。
参加者数は約 500 名で，中国，マレーシア，日本，韓国，ベトナム等が多かった模様。日本からは 57 名参加と 11 件の発表があった。カナダからの申請や米国からの派遣など，参加国は増えている。韓国済州島に続き，8 月 2～4 日に山陰海岸の現地視察が連続の日程で行われることが決定した。会期中に第 2 回アジア太平洋ジオパークネットワーク会議も開かれ，来年はベトナムで開催予定。

【審議】

1．世界ジオパークネットワーク申請候補地域

1）阿蘇
- 名水百選の菊池渓谷は阿蘇からの湧水なので，入れてほしい。
- デザインセンターの役割・活動が際だっており，行政の取り組みやサポートが見えにくい。自治体の温度差を感じる。地元同士の連携がほしい。（複数）
- 訪問者にとって，ジオパークとしての“入り口”がわかりにくいので，工夫が必要。

2）室戸
- 昨年に比べて内容がやや少なめだった感があるが（複数），タオルを使ったメランジの説明など，プレゼンはわかりやすくなった。
- 「海と陸の出会い」というキャッチフレーズは非常にいいが，大学と連携し，しっかりしたストーリーがほしい（複数）。
- 専門用語は，訪問者のレベルに応じてガイドが使い分けられるようにしてほしい。
- 今夏，地震火山子供サマースクールの開催が予定されるなど，ジオパークへの地元の取り組みにも熱が入ってきた。県の協力も得られるようになり，体制は良くなってきた。

2．日本ジオパーク候補地域

1）白滝
- 昨年に比べ地質色が強くなり，黒曜石の説明が非常にわかりやすくなった。
- 地質と考古が大きなストーリーとしてつながりそうだが，人や文化とのつながりにまだ工夫がほしい。

・ 考古学の分野では黒曜石は宝である。白滝が中心になって，氷河期の問題と対応させた説明もしてほしい。

2) 伊豆大島
・ ジオサイトは豊富で，黒曜石の出る縄文遺跡もある。それらをどう連ねるかだ。
・ 伊豆諸島は他島でも申請の機運がある。伊豆七島全体でのジオパークがいいのではないか。一方で，島同士の交流と交通という点では課題が多い。東京都や船舶会社との連携が鍵になるだろう。
・ 運営組織はまだ始まったばかりの段階である。
・ 国立公園の看板設置に要する時間は確認が必要。

3) 霧島
・ パンフレットが以前よりわかりやすくなっている。
・ もう少し広域からのアプローチがほしい。山麓も含めて多くのジオサイトを設ける必要がある。また，解説板が古いので，ジオパークを機会に，整備する必要がある。
・ 2 カ所の拠点施設はまだ十分な状況とは言えず，ジオ・自然の担当者がいない。地元の博物館との連携もほしい。
・ 噴火に対する安全対策もしっかり考えてほしい。

5 地域全て現地審査をした上で，意見・要望を伝えることとすることが確認された。
評価シート（資料 4）

【現地審査について】

事務局から，現地審査委員と日程の案が示され，補足説明が行われた。今後，委員と地元の日程の都合を再調整し，最終決定していくことが確認された。

【次回委員会について】

9 月 14 日，15 日で調整することが確認された。

【その他】
・ 中川委員から，防災の関係で気象庁にもオブザーバー参加してほしい旨，要望が出された。→　異論なく，まず中川委員から気象庁担当部署に問い合わせることが了承された。

18:35 閉会